

第9回基礎情報学研究会実施報告

2014年8月20日
基礎情報学研究会 高田信夫

- 1 日時：2014年7月26日（土）14：00～17：00
- 2 場所：コンピュータソフトウェア著作権協会会議室
- 3 参加者：13名
- 4 テーマ「近代における情報リテラシー教育—リテラシーの統合傾向とその超克について—」
- 5 寺本卓史氏（城西国際大学准教授）
- 6 講演および討論の内容

講師の寺本先生からレジュメが配布され、講演が始まった。講演の要旨は、基礎情報学をベースにした「リテラシー教育は機械応報としての言語を流通させることには成功してきたが、『意味』の創造を行う領域をやせ衰えさせてきているのではないか」という問題意識のもとに、近代日本およびヨーロッパのリテラシー教育の系譜を概観したものであった。

リテラシー教育の系譜として、

- ・リテラシー＝読み書き能力 17C から多様な形で教育が存在
- ・マス・リテラシー＝広い範囲で共有され標準化・統合化された読み書き能力
- ・メディア・リテラシー＝80年代以降のニュー・メディアの批判的受容を中心とする能力
- ・情報リテラシー＝主にインターネットを対象とした情報活用能力

の4つが挙げられ、情報教育とリテラシー-の関係が述べられた。

さらに、ヨーロッパにおけるマス・リテラシーの発展、明治時代以降の日本の、マス・リテラシー教育などについても言及された。

講演のあとの討論会では、以下のような質問・意見が出された。

- ・「情報リテラシー」という言葉は聞き慣れないが、どういう意味なのか。ITリテラシーと同じ意味か。
- ・今回のお話はレジス・ドゥ・ブレの「メディアロジー」と重なる部分があるのではないか。
- ・リテラシーの系譜というのはおもしろいと思うが、アプローチのしかたにもう一工夫が必要ではないか。
- ・ネオ・サイバネティクスの視点が必要ではないか。